

<b>第4回奈良市子ども条例検討作業部会 会議録</b>	
開催日時	平成26年2月2日（日）午後1時から午後4時15分
開催場所	奈良市役所 北棟5階 第21会議室
議 題	<p>(13:00～14:30)</p> <p>1 子ども条例骨子素案について</p> <p>2 第3回奈良市子ども条例検討作業部会の会議録について</p> <p>3 その他</p> <p>(14:45～16:15)</p> <p>4 子どもワークショップ参加者との意見交換</p>
出席者	<p><b>【奈良市子ども条例検討作業部会】</b> 4名</p> <p>・浜田進士 部会長 ・近藤正基 委員</p> <p>・奥田真紀子 委員 ・都築由美 委員</p> <p><b>【奈良市子ども条例検討委員会】</b> 1名</p> <p>・木下勇 副委員長</p> <p><b>【子どもワークショップ参加者】</b> 3名</p> <p>※ 議題4 子どもワークショップ参加者との意見交換のみ出席</p> <p><b>【事務局】</b> 11名</p> <p>・中川昌美 子ども政策課長 ・福西敦子 こども園推進課長補佐</p> <p>・鈴木千恵美 保育所・幼稚園課長補佐 ・米田浩武 子ども育成課長補佐</p> <p>・野儀あけみ 子育て相談課長補佐 ・玉中健一 地域教育課長補佐</p> <p>その他 子ども政策課職員 5名</p> <p>※ 議題4 子どもワークショップ参加者との意見交換のみ出席</p> <p>・寺田耕一 子ども未来部長 ・石原 勉 子ども未来部理事</p> <p>・山岡利啓 子ども未来部参事</p>
開催形態	公開（傍聴人1人）
担当課	子ども未来部子ども政策課
<b>会議の経過・議決事項・その他参考事項</b>	
1	<p>子ども条例骨子素案について</p> <p>事務局から、子ども条例骨子素案について、説明し、各委員の意見を求めた。</p> <p>委員から、素案の中に「遊ぶ」という言葉をどこかに入れた方がいいのではないかとの意見が出た。これに対し、「子どもの居場所づくり」を「子どもの居場所・遊び場づくり」と変更し、この文章の中に遊びの重要性に触れる文言</p>

を加えることとなった。

委員から、VI（1）子どもの意見表明と参加の促進について、内容として、参加の保障について触れている部分もあるため、促進という言葉はいらわないのではないかとの意見が出された。それに対し、子ども会議は別建てになっているので、その他の部分については、やはり「子どもの意見表明と参加の促進」のままで変更なしとなった。

また、参加よりも参画といった文言の方がいいのではないかとの意見が出され、「子どもの意見表明と参加・参画の推進」といった書き方ではどうかとの案が出た。それに対し、議論した結果、参画という文言は踏み込みすぎているのではないかとの意見があり、「子どもの意見表明と参加の促進」のままで変更なしとなった。

委員から、子ども会議について、規模や開催の頻度等について、どのようなものをイメージしているのかとの質問があり、それに対し、事務局は具体的な運営については、運営要領等の段階で決定することになるが、素案にもあるように、子どもの自主的自発的な運営ということで、子どもの意見を聴きながら決めていくようなものをイメージしていると回答した。

委員から、子どもへの施策に関わる雇用についても支えていけるような文言を入れてはどうかとの意見が出された。それに対し、他都市の例も見ながら検討することとなった。また、委員よりどのような文言がよいか提案をいただくこととなった。

委員から、VI子どもにやさしいまちづくりの推進の（5）子どもへの虐待等に対する取組のところで文言が「虐待、いじめ及び体罰等」となっているが、V大人の役割の（5）子どもが育ち学ぶ施設の役割のところでは、「いじめ、虐待等」となっているので、統一した方がいいのではないかとの意見が出された。それに対し、「虐待、いじめ及び体罰等」で統一することとなった。

## 2 第3回奈良市子ども条例検討作業部会の会議録について

事務局から、第3回奈良市子ども条例検討作業部会の会議録について説明し、承認された。

### 3 その他

本日の議論を踏まえて、骨子素案の修正をし、第14回奈良市子ども条例検討委員会において報告することとなった。

### 4 子どもワークショップ参加者との意見交換

浜田部会長より、意見交換のねらいについて、次の3点を説明した。

- 今までのワークショップの意見が条例作りにどのように活かされているか説明をさせてもらうこと
- 説明した内容について、質問や意見があれば教えてほしいこと
- 3月21日に予定しているワークショップについて、進め方に意見があれば教えてほしいこと

浜田部会長より、子ども条例の骨子素案（検討中）について子ども参加者3名に説明を行い、意見を求めた。それに対し、次のような意見が出された。

- 文章の語尾が「努めるものとする」というものが多く、もっと「しなければならない」といったような言葉にした方がいいと思います。
- このままの条文だと難しいから、子どもに説明するときはわかりやすい文章にしてほしい。例示を入れたりするとわかりやすいと思う。
- 子ども会議のところで、話すのが苦手な子どももいるので、会議だけでなく、意見箱とかメールとか、会議以外の方法も取り入れて欲しい。子どもリーダーを決めて、その人たちが意見をまとめて、子ども会議におろすとかの方法がいいと思う。
- 考えが固まったり、視野が狭くならないように、子ども会議のメンバーやそれを支えてくれる大人のメンバーも、例えば、1年おき等でどんどん変えていけばいいと思う。
- 子ども会議に子どもが参加しやすくするには、授業に取り入れたりして半強制的にやる方が参加人数は多くなると思う。他校の人と話すときは、スカイプを使ったり、近くなれば他校まで行ってもいいと思う。
- いろんな子どもの意見を聴くために、ボランティアクラブを使うというのもいいと思う。各学校に作って兼務するようにしたら、忙しい時でも、行ける時間をみつけたら参加することができると思う。

- 子ども会議を開くだけでなく、親同士の親交の場を設けたらいいと思う。
- 大人と子どものつながりがないように思うので、子どもだけの会議じゃなくて、大人も一緒になった合同会議みたいにした方がいいと思う。大人と子どもが話し合える仕組みを作って欲しい。
- 「子どもの生活がもっと向上するために、努めなければならない」のような言葉が入っているといいと思う。成長だと勝手に年をとって成長していくようなイメージだけど、向上は周りの人から良くしてもらおうような意味合いになると思う。
- 気軽に遊んだり息抜きができる居場所があるといいと思います。
- 学生は勉強が本分だと思うが、放課後等は勉強じゃなくて遊びとか興味のあることをさせてほしい。遊ぶ場所がなく、勉強が多いから、合間の空いた時間にはゲームをしてしまう。
- またシンポジウムをするときには、様々な意見を持っている人に来てもらえるといいと思う。そういう人と話し合うことで視野も広がるし、大事なことだと思う。

3月21日の進め方については、資料をわかりやすくして、ポイントを整理する等の意見が出た。また、部会長から、その他の進め方についてはメール等で相談し、出席ができるようなら司会をしてもらうことも含めて打ち合わせをさせてもらいたいと伝えた。